

ガラス細工の安保政策 憲法・国民・国会無視の自衛隊暴走 の実態暴露(小池質問) オナガ・菅会談直前に米軍ヘリ墜落 ヘリにはテロ対策専門の陸自特殊部 隊員が搭乗 やっぱり戦争法案は撤回・廃案 しかない！！

小池晃日本共産党参院議員が11日の参院安保特別委員会で追及した、自衛隊統合幕僚監部の資料が戦争法案成立を見越して作戦をたてていた問題は、中谷防衛大臣の責任問題を含め極めて大きな反響を呼んでいます。(別項に傍聴記)

12日、沖縄県うるま市沖の米艦艇に米軍ヘリコプターが墜落、けが人が出ました。このヘリには、イラクなどにも出動した陸上自衛隊中央即応集団のメンバーが搭乗しけがをしています。怪我をした隊員は、中央即応集団の中でもテロリストの制圧が専門の特殊部隊、特殊作戦群の隊員でした。しかもこの事故は、菅官房長官がオナガ知事をねじ伏せようと訪沖し、まさに会談の直前の出来事でした。

次つぎ明らかになる憲法無視、国民ないがしろの日米ガイドライン路線、戦争法先にありき、自衛隊独走の実態は、到底許されるものではありません。

やはり戦争法案は撤回・廃案しか道はありません。

九条の会事務局と法学者 戦争法案廃案にむけて学生・市民のつどい

8月12日東京都内で、九条の会事務局主催、民科法律部会協賛で、「戦争法案廃案に向けて 法学者と学生・市民のつどい」が開かれ、210人が参加し活発に討論しました。

7500余の草の根の九条の会が全国各地で大奮闘、九条の会を基礎に新たな共同や運動が巻き起

この例も少なくないなか、戦争法案廃案に向け、法学者と学生・市民が語り合う場が設けられたものです。九条の会はこの日夜、「交流・討論集会」を開催、戦争法案廃案にむけ全力をあげようと思意思統一しました。

つどいでは、学生から「この法案で自民党は何がしたいのか」「『法的安定性は関係ない』発言の問題点とは」「この法案が通ると自民党は明文改憲しないのか」「集団的自衛権は必要だという人とどう話したらいいか」などの質問が出され、各分野の研究者が法案の問題点や廃案への展望などを話しました。



憲法学の浦田一郎・明治大学教授は、法案を合憲とする政府説明について、過去の政府見解や判決を形式的に「あてはめ」ただけで、その論法は「基本的な論理からかけ離れている。わかりにくいのは違憲だからだ」と述べました。また現在の法案は解釈として限定的なので法案が通ると明文改憲へ進むことになるとのべました。

国際法学の城秀孝・神田外語大学講師は、集団的自衛権は権利ではあるが義務ではない。国連憲章では国際紛争は何より「話し合い」で解決しようとしている。武力行使となった時に国民の暮らしや地方自治体はどうなるのかなど議論が必要だと話しました。

刑事法学の新倉修・青山学院大学教授は、自衛官の国外犯処罰規定がないなど自衛隊の活動拡大で起こりかねない人権侵害などへの法的対応が穴だらけであることを告発しました。東アジア平和共同体を市民レベルですすめるなどが必要だ。とにかく憲法9条は世界の財産であり国際的な約束だと述べました。

二つの共同が原動力になり、4つの新しい力が生まれている



その後会場からの質問（「政権を倒せるのか」、「野党共闘の今後は」、「左派の運動が見えない」

など)を受けて、政治学の渡辺治・一橋大学名誉教授はたたかひの新しい特徴と運動の変化などについて次のように話しました。

反対運動の原動力として、二つの共同が意識的にとりくまれた。その一つは、90年代以降の平和運動ではできなかった運動団体間の共同の実現がある。3つの実行委員会(共同組織)が話し合い、「総がかり行動実行委員会」が作られ、今年の5・3憲法集会には3万人以上の参加者と、民主、共産、社民、生活の4党の代表が壇上に勢ぞろいした。もう一つの共同としては、九条の会のように、安保や自衛隊への意見の違いをこえた共同が広がっていることだ。「戦争する国にしない」一点共同。平和を求める声と民主主義を求める声が共同している。

そのうえで4つの新しい力が生まれているとして、**第一**に安保闘争は首都圏、大都市のたたかひだったが、今回は違う。中央紙の論調は弱いが、40以上の地方紙は反対の論調が強い。これは地域の変化を反映している。7500の九条の会が地域で共同を広げた結果だ。7月27日の毎日新聞は2013年3月から今年7月14日までで計405議会から「反対」「慎重審議」を求める意見書が出されていると報道している。**第二**は、保守層が立ち上がりつつあることだ。毎日新聞は党派別の賛否を各議会事務局に対してメールによるアンケートや電話などで問い合わせ、7月17日までに78%にあたる318議会から回答を得ているが、114議会で自公両党系議員が「反対」「慎重審議」の意見書に賛成している。**第三**は、学生が立ち上がったことだ。**第四**は、60年安保は男のたたかひだったが、今回は、女の平和やママの会など女性たちが立ち上がり運動が広がって、その結果、世論調査では安倍内閣を支持しないというのは女性が多くなっていることにも表れている。

安倍内閣を倒して廃案を 8月30日に総力を

ではどうすれば潰せるのか。廃案にするためには安倍内閣を倒す以外にない。決め手は何か?自民党政権の危機的な状況をつくることだ。70年間守ってきた「戦争しない国」を守るために全力を尽くそう。

6月4日憲法審査会で3人の憲法学者の発言が転機をつくった。強行採決と95日間の長期の会期延長の持つ「爆弾」もある。原発再稼働であり、70年談話であり、沖縄辺野古だ。辺野古については一か月中止して「爆弾」を先送りにしたが、9月10日以降さらに県民・国民の怒りは高まる。

8月30日、総がかり行動実行委員会が呼びかけている国会10万人、全国100万人のとりくみを全力をあげて成功させよう、と結びました。

8月11日 特別委員会傍聴記

8月11日は午後1時から4時間16分の野党による質疑が予定されていましたが、既報のとおり、日本共産党の小池晃議員が統合幕僚監部の内部資料を暴露したことで休憩して理事懇が開催され、午後4時7分に鴻池委員長は散会を宣言する事態となっています。

散会までの民主党、維新の党、日本共産党の質疑の概要を報告します。

非核三原則と核兵器の輸送など政府統一見解を文書で求める 民主・大塚議員

民主党の大塚耕平議員は、この間の主要な論点について、一つひとつ文書による政府の統一見解を求めると、以下の点について委員長に取り計らいを要求しました。

- ①非核三原則の堅持について、広島では触れず、長崎では触れた問題で、その対応の違いについて、どのような理由で判断したのか開示を求める。
- ②安保法案では法理上「核兵器の輸送も可能」との答弁があったが、非核三原則とこの法案については関係がないのかとの質問に、岸田外務大臣は「関係がある」と答弁。このことに関して、「輸

送しない」とは書いていないので、どのように関係があるのか、その因果関係と論理性を書面での提出を求める。

③防衛省・自衛隊の装備品等に求められる機能、性能などを定めた「規格目録」には「巡航ミサイル」なども出ているが自衛隊は保有していない。そこでこの規格目録に沿って、どの武器弾薬は輸送することが可能で、弾薬についてはどの弾薬を提供し得るのか、できないのかについての資料の提出。

④劣化ウラン弾やクラスター弾を搭載している戦闘機への給油をするということは事実上その使用をほう助することになる。日本が提供をしないと判断したり、提供できないことになっている武器弾薬を積んでいる航空機には給油しないということに関する政府統一見解の書面による提出。

⑤防衛白書の英訳の問題。平成 25 年度版と 26 年度版では専守防衛の表現や憲法との関係が日本語版は変わらないのに英語版は変わっている。26 年度版では存立危機事態のような時でない日本は武力行使しない、だから専守防衛なのだという説明は一切ない。これでは諸外国では、まるでフルスペックの集団的自衛権を日本が認めていると受け止めることになる。そこで一つは、25 年版、26 年版の英訳を和訳した資料の提供、二点目は 27 年版の英訳原案の委員会への提出。

⑥自衛隊法 3 条、76 条、88 条で、3 条と 76 条をいじっているが 88 条は手を付けていない。そのことでそごがあると思うので、そごがないというのであれば、論理的説明を書面で求める。

⑦集団的自衛権に基いて武力行使をする場合、我が国はその国に対して宣戦布告をするのかについても政府の統一見解を文書で。

⑧先制攻撃に関する資料、先制攻撃と集団的自衛権についての内容と外務大臣の答弁の整合性を書面で。また専守防衛の定義が変わったのかの資料。

憲法前文の平和主義、長崎市平和宣言などを基に違憲性を追求

民主党の小西洋之議員は、「違憲」の核心論点を中心に質疑をすることで、憲法前文の平和主義と集団的自衛権の行使、あるいは核兵器すら提供、運搬できるという安保法制の仕組みなどについて質疑しました。

小西議員は、8 月 9 日の長崎市長の平和宣言、被爆者代表の平和の誓いを資料として配布。「日本国憲法の平和の理念が、今揺らいでいるのではないかという不安や懸念が広がっています。政府と国会にはこの声に耳を傾け、英知を結集し、慎重で真摯な審議を行うことを求めます」との平和宣言を読み上げ、また被爆者の代表の「今政府が進めようとしている戦争につながる安保法制は、被爆者を始め平和を願う多くの人々が積み上げてきた核兵器廃絶の運動、思いを根底から覆そうとするもので許すことが出来ない」との言葉も紹介しながら、これは憲法前文の 3 つの平和主義を含んでいると受け止めているのかと質問。岸田外務大臣は、憲法前文を読みながら、「日本国民は、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意する」というのが一つ、また「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」これが二つ。三つ目として、「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」この三つの理念はしっかり含まれていると考える、と答弁。

小西議員は、「ではなぜ大量破壊兵器である核兵器を安保法制の下で輸送、提供できるのか。政策論ではなく法理として。まさに憲法違反ではないか」と追及し、委員長に政府の統一見解の提出を求めました。憲法前文の平和主義のもとで、石油が足らなくなるからといって自衛隊を派遣して武力行使し、機雷掃海の武力を行使して石油を確保することがなぜできるのかと質問。中谷防衛大臣は、「憲法の平和主義、これも大事なわけですが、しかし国家として国民の生命、財産、これを守ることも大事なわけでごさいます…自衛の措置は憲法上も認めている」と答弁。しかし小西氏は、「他国民の平和的生存権はどうなるのか。日本が武力攻撃を受けていないにもかかわらず、ある国に日本が武力行使をするのが集団的自衛権の行使なので、他国民の平和的生存権を抹殺しても

日本は石油のために集団的自衛権という武力行使ができるという法理なのか」と再度質問しました。

長崎市長の平和宣言や被爆者の言葉をもとに、憲法前文や9条の基本理念を正面から問いながら、最後に、与党協議でも憲法前文の平和主義を全く議論していない。平和主義と集団的自衛権行使が法理としてなぜ矛盾しないのかとただし、文書の提出を求めました。

法案は違憲で無限定で歯止めがないことを国民は見破っている

維新の党の柴田巧議員は、アメリカの情報機関、国家安全保障局（NSA）が日本政府や企業などの電話 35 回線を盗聴していた問題を取り上げました。ドイツ、フランス、ブラジルなどの場合は直接オバマ大統領に抗議をして再発防止を約束させているが、日本政府は腰が引けている。安倍政権は日米同盟の強化を掲げて安政法制を急いでいるが、そのアメリカに盗聴を許しておいて毅然とした態度が取れないということであれば対等な関係など築けない、アメリカの言いなりになって海外派兵しないといっても国民からは信用されないなどと質問。

これに対し政府は、事実関係を明らかにするよう求めたと言いつつも具体的な回答期限などには触れていないことなど、アメリカ追従の態度に終始しました。

さらに「法案審議の中で、アメリカがサイバー攻撃を受けた場合に、日本がアメリカとともに反撃することが可能だとする見解を政府が出している。サイバー攻撃の国際法上の位置づけすらまだ確立していない中で、サイバー攻撃までもが集団的自衛権の対象になることは、対象が際限なく拡大しかねないと具体的な説明を求めました。しかしこれには明確な答弁はなく、柴田氏は、国民には理解されないと指摘しました。

また後方支援の中身で、法理上は化学兵器や毒ガス、核兵器も輸送可能だとしているが、実際には総合的に政策判断するとしている。衆議院予算委員会で安倍首相は、「一々確認をしながら対応する」と発言した。重大な発言だ。どのように確認するのか、と追及しました。中谷防衛大臣は「信頼関係と事前の調整等で対応する」と首相と食い違った答弁を行いました。

最後に柴田氏は、「多くの国民のみなさんは、この法案を政府案をそのまま通すわけにはいかない、我が国にとって現時点で必要とされていない、との意見を強くしているのは間違いない。今法案が違憲で、無限定で、歯止めがなく、一方では自国防衛を強化するものではないと国民は理解している。既に見破っているから支持が高まらないのではないかと発言し、質問を終わりました。

「戦前の軍部の独走だ。法案は撤回以外ない」

その後、日本共産党の小池晃議員が質問にたち、独自に入手した統合幕僚監部の資料をもとに質問。中谷防衛大臣は「同じ表題の資料、これは存在いたします。」と答えながらも「細部まで確認、特定するには時間がかかる」などと答弁。小池議員は「ガイドラインと法案の関係を示す重大な文書だ。根幹問題だ。それを大臣が知らないということ自体が大問題だ」と追及しました。

さらに「これは法案の成立を前提とした克明な自衛隊の部隊の編成の計画まで含まれている。こんなことは戦前の軍部の独走と同じだ。許されない。法案の撤回以外ない。これ以上議論できない」と主張しました。

午後 3 時 48 分委員長は暫時休憩を宣言し、途中理事懇談会をおこない、午後 4 時 7 分委員会を再開し、直後に散会しました。